



アビラ



平成 28 (2016) 年 12 月 16 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

鉄棒に逆さにぶらさがると、世界がまるでちがって見える！ そんな体験も子ども時代には必要だと思う！

年末だというのに、この空の青さ！ この風の心地よさ！ カラカスは年末も最高だ！

■■カラカスの子は、跳び箱につづいて、今度は鉄棒と縄跳びに夢中です！■■



クリスマスツリーが、玄関ホールに飾られて、学校はもうクリスマスです。もうすぐイルミネーションも点灯します。



鉄棒を頑張って手のひらに豆が出来た思い出って大人なら誰もが持っているものです。懐かしい痛みです。今、カラカスの子は跳び箱に続いて鉄棒に挑戦しています。アビラ登山目指して縄跳びにも挑戦しています。

■■遊具の再生！■■

学校中の遊具のペンキ塗りを行いました。白い物はより白くなり、みんなピカピカに生まれ変わりました。



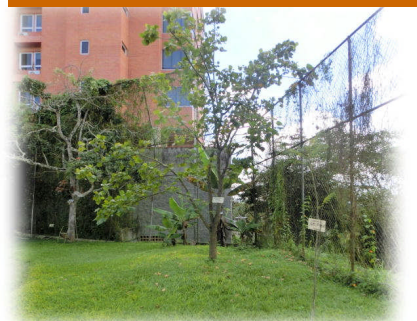
■■こちらは、NEWS CJC！■■

5年生が授業の中でニュース番組を製作して、発表しました。



■■すごろくで国際交流！■■

高学年がお手製のすごろくで、国際交流（英語・西語）をしました。



創立40周年記念樹、ブカレとジャカランダがアティージョの大地に根付き、葉をいっぱいしげらせています。



カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…（その142）

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 37

中野俊子先生が書かれたカラカス日本語補習校の歴史の4回目、最後です。

■カラカス日本語補習校の歴史…（中野俊子）■ 山田先生の任期3年目、学校はカティグヤナのキンタ・カルメンに移っていたが、この年校長の依頼で、再度1年間補習科を手伝った。中学部1学級、小学部3学級、生徒約30名であった。私の受け持ちの初級の生徒は千差万別、両親とも日本人ではない生徒が入ってきて、補習校発足以来初めてのことでなかっただろうか。この頃、全日制の運動会は隣の女子校テレシアノの校庭を借りて行われたが、補習科も毎年参加している。（中略）また、当時は一応、規則として補習科入学を希望する生徒は両親のいずれかが日本人（または日系人）であることが条件であったけれども、何年後、補習科の生徒数が減少した時、経営上の問題もあって、この条件は自然に消滅した。その後、年月の経過と共に、徐々に両親とも、日本人でない生徒も増え、現在、補習科には30名余りの多様な生徒が在籍、先生方のご指導の下、運動会などにも全日制の生徒と組んで競技に参加するなど、非常に好ましい形で、全日制と共存している。最後に、草創期から1984年まで17年間、85年に日本人学校派遣教員の方々に全面的に補習科が委ねられる時まで、それぞれ家庭の主婦や企業員として多忙な日々の時間を割いて指導を引き受け協力された講師の方々の忍耐と努力があったことを記したいと思う。今までカラカス日本語補習校関連の記事が何度か活字になったが、私の知る限り、殆どの講師の方は無名のまま今日に至っている。私が記憶するだけでも、開校当初からほぼ時代順に根本、中島、中井すいの、小倉智恵子、平越若菜、加藤、瀧木、飯村千鶴子、正木寿子、安川、平林みゆき、中村敬、宮坂和子、野崎昭二、石原常義、小平一江、米倉和江、仙石智子、内垣孝子、マレジャーニ美代子さんなどの名を挙げるができる。講師を務められた期間の長短はそれぞれ各人各様であったけれど、それぞれの時期にそれぞれのやり方で大きな貢献があったことを忘れるわけにはいかない。 つづく